

# 計画訪問を終えて

学びを成長に変換

2018.08.30

No.28

校長 渡邊 幸二

昨日までの準備、そして当日の授業提供、またその後行われた全体会での真摯な討議、本当にありがとうございました。

10年に一度とは言え、当たってしまえば面倒といえば面倒となってしまうものを、そうではなく、**自分の学びのチャンス**と捉えて向き合っていたいただいている先生方の姿に、本当に頭が下がりましたし、校長としてこれほど嬉しいことはありませんでした。

教頭先生からもお言葉がありました。この学びを学んで終わりとするのではなく、実際にやってみることが重要だと思います。何事もそうなのですが、プランを立てたり、システムを作ったり、意識の共有を図ったりということまでは何とかこぎつけるのです



が（そこまで至るのも難しい）、その先の「**実践化**」まで行けているかどうか、それが最も重要です。研修も同じですね。「いい話だった！」で終わっては、授業実践を生業としている教師としては失格と言えます。

## 実践化に向けて

その実践化に向けていつも思うことは、**どれほど自分自身が楽しんでいるか**ということです。実践を進めるときに、



### 「言われたからやる」

は最低レベル。きっとストレスで終わります。ぞんざいな実践となり、形ありき、活動ありきの実践となってしまうのではないかと思います。おそらくご自身の血や肉にはならないでしょう。いっそやらない方がましではないでしょうか。

次に、

### 「誰かに認めてもらいたいからやる」

は、上昇志向という点では意欲的に実践できる可能性はあります。しかし、おそらく実践の基準が他者にあるので、つまり誰かの評価によってモチベーションが左右されてしまうので、継続性や自身の成長という点では疑問が残ります。

昨日のJ先生の授業にしても先生方の授業にしても、自分がやりたかったことをやったということが大切なのだと思います。それが「**やりがい**」の姿だと考えます。



NRTの結果を見ても、**全国学調**の結果を分析しても、**今の授業改善、学校研究の方向性は間違っていない**。と言うか、先進的で、未来を生き抜く子どもたちを育てる確かな方向だと思います。

先生方は、いつも実践の最前線にいます。この方向で進んでいただけるのであれば、どんどんいろいろなことに積極的にチャレンジしてみてください。うまくいかなくても、失敗しても構わないじゃない

ですか。それが私は実践というものだと思います。どうか遠慮なさらずに進めてください。それがラストマンとしてのスタンスです。

## 「ありがとう」を大切に

全体会Ⅱのグループ討議の中で、確かこんな報告がなされていたと思います。「ありがとう」という言葉を教師が積極的に発することによって、子どもの適切な言動に注目しようという考えだと思います。ぜひ進めていただきたいことです。

廊下の掲示物に「あいさつ・えしゃく・ありがとう」というものがあります。他者意識が少しでも高まるようにとの願いで置いているものですが、この「ありがとう」には大きな効果が期待できます。**誰かに何かしてもらったら、子どもたちからこの言葉が言えるようにしつけていただきたい**と思います。手伝ってもらったら「ありがとう」、教えてもらったら「ありがとう」、賞状をいただいたり何かをもらったりしたら「ありがとう」、先生にほめてもらったら「ありがとう」という具合に、そういうクセが身につけている人になればいいなと思います。



## 課題解決の先の夢

○指導主事からの言葉です。課題解決で終わるのではなくその先の夢を追ってほしいという話がありました。



たとえば、あいさつ運動をがんばった先に、中学校等へ自ら働きかけ、一緒にあいさつ運動を展開していく……学区全体を明るい地域づくりにするための貢献活動にまで発展させることなどはどうでしょう。

**公益・貢献活動**は、そんな夢につながる活動だと思います。これからも「**浜田ブランド**」を高めていく活動づくり・単元づくりをお願いします。